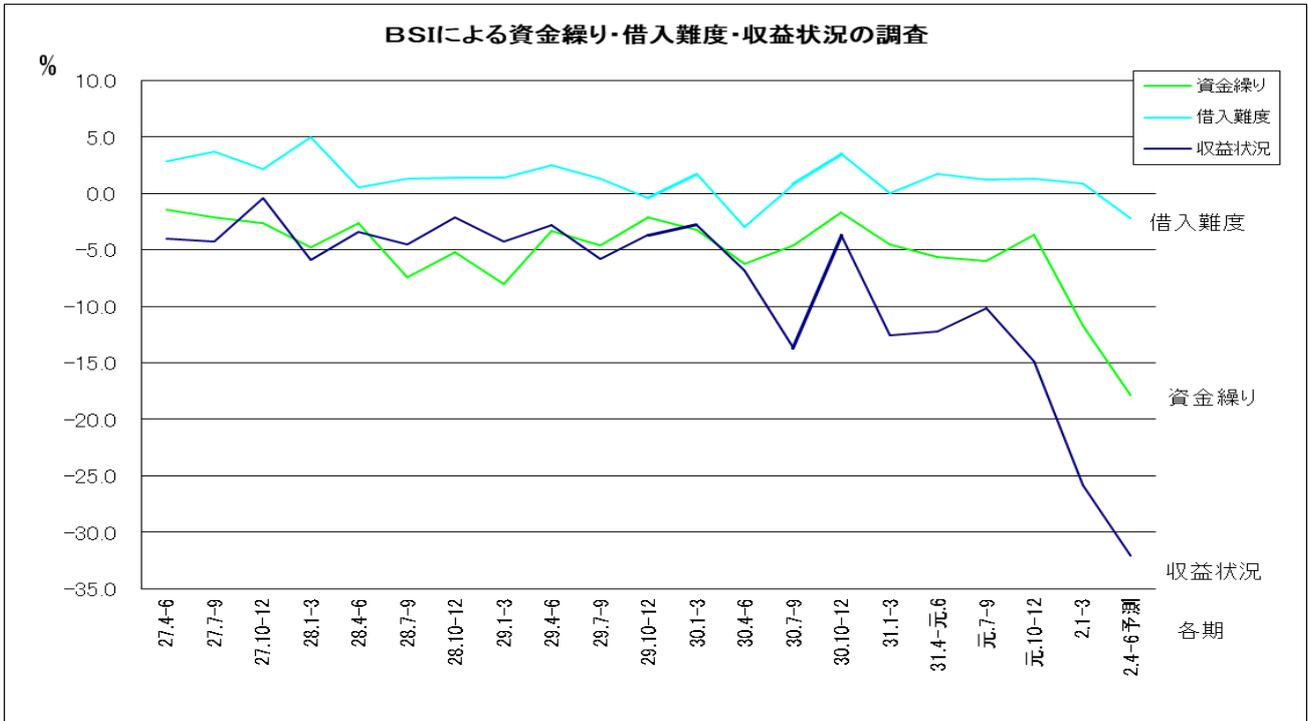
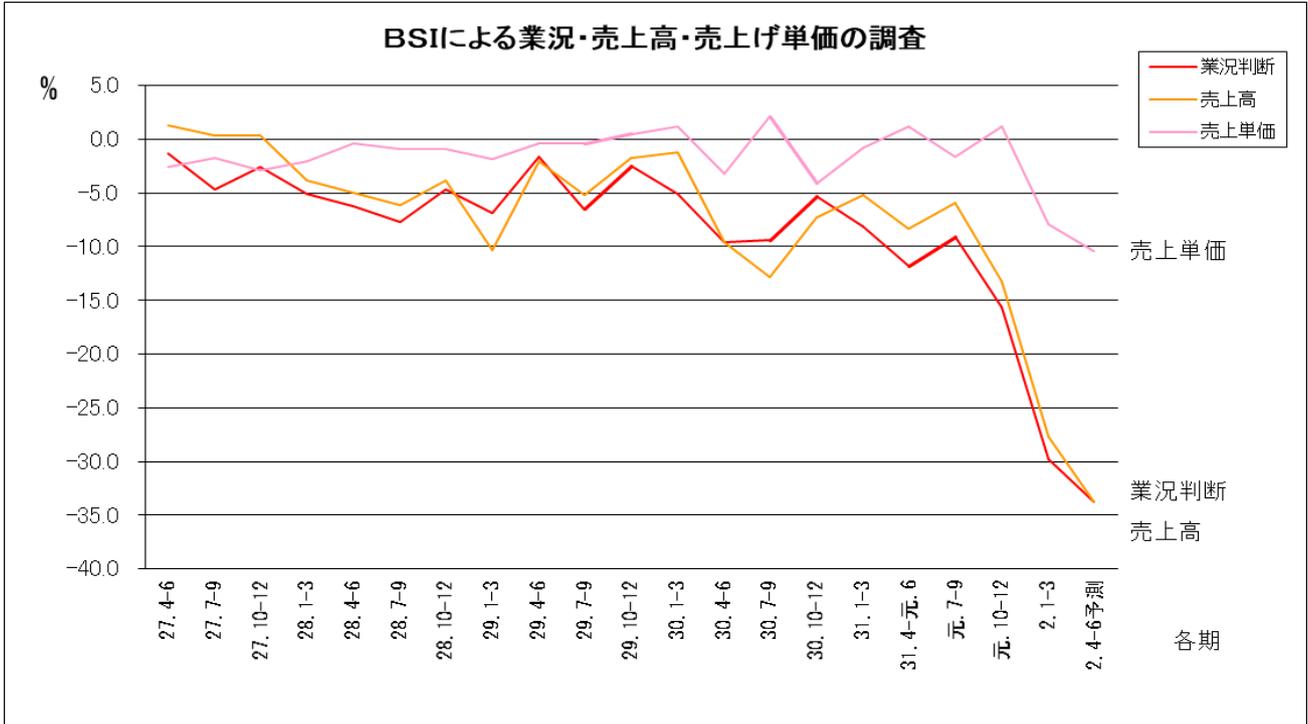


今期の業況判断は「-29.8ポイント」。
平成20年10月-平成21年3月に迫る下降。

中小企業景況調査令和2年1-3月期(令和2年4-6月期予測)

—鳥取県下4商工会議所の調査より—



*BSI=(上昇・増加-減少・下降)×1/2 (但し、「上昇・増加」+「横ばい」+「減少・下降」=100)
経営者の業況に対するマインドを反映するもの。(0%は「上昇・増加」と「減少・下降」が同数。「+」は上昇・増加、「-」は減少・下降)

■業況(グラフ参照)は・・・

「令和2年1-3月期」は、「売上単価」「売上高」「収益状況」「業況判断」「借入難度」「資金繰り」全てが下降しました。

「業況判断」は「-29.8ポイント」となり、平成20年10-12月期の「-34.4ポイント」、平成21年1-3月期の「-32.9ポイント」に次ぐ数字です。

来期はさらに厳しい景況状況「-33.8ポイント」が予測されています。

■直面している経営上の問題点

- 1位:売上・受注の減少(22.61%)
- 2位:消費・需要の停滞(18.26%)
- 3位:経費の増加(8.70%)
- 4位:利益率低下(8.12%)
- 5位:競争激化(7.54%)

■各社からのその他の問題点

- ・新型コロナウイルスによる影響が不透明であり、今年度以降の収益確保の予想が立てられない。公共工事の安定した確保を願う。(建設業)
 - ・鳥取県東部地域では大型工事が終了し、今後は同業者との仕事の受注競争が予想される。(建設業)
 - ・材料(部品等)届かない物がある。(建設業)
 - ・新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明(製造業)
 - ・新型コロナウイルスの感染の収束がみえない状況で業界全体が停滞している。消費税減税(5%へ)や補助金を早期に受給できるよう願う。(製造業)
 - ・資材などの調達に不安がある(製造業)
 - ・間接的に中国や欧米の部品を使用しており、その部品が入荷ストップした場合の対応。社員に新型コロナウイルスに感染した者が出た場合の対応。(製造業)
 - ・顧客により受注が半分以下になっている企業もある。リーマンショック当時以上の助成をお願いしたい。(製造業)
 - ・新型コロナ影響あり(製造業)
 - ・今までは「新型コロナウイルス」の大きな影響はありませんでしたが、徐々に影響が出て、商品が入りにくくなっています。(卸売業)
 - ・嗜好品である書道用和紙の落ち込みがひどい。借り入れには限度があり、返済するあてがはっきりしない。補助金、助成金や交付金を出してもらいたい。在宅勤務ができない流通業に対する手当も考えて欲しい(卸売業)
 - ・小中学校の休校要請、事業(業務)の休業と国が行う企業の売上補償はセットでなされるべき。このままでは食品卸売業界は全企業が潰れてしまう。国の文書にことごとく書いてある「転売」という言葉の定義・解釈は間違っている。売れないものを売る努力をするのは当たり前。売れた売れる予定は補償の対象外というような考え方働くものを馬鹿にしているとしか思えない(卸売業)
 - ・今が端午の節句に向けたハイシーズンのため、コロナの影響が非常に大きい(小売業)
 - ・コーヒー生豆が入荷しにくくなってきているので(取引先も神戸なので)コロナがおさまるまで、どうしたらよいか分からない。具体的に早急な援助が欲しい。(小売業)
 - ・宴会の自粛、宿泊(観光・ビジネス利用)減、レストラン利用減。ホテルにお客様が来てくれません。いつまで耐えることができるか分かりません。(サービス業)
 - ・コロナ予防品のマスク及び体温計等が仕入れできない。(サービス業)
 - ・宿泊業にとってコロナの影響は甚大である。長期化すれば大変である。融資等雇用助成はありがたいが、直接的な支援(税免除、給付等)を強く要望する。
- 又、早急な方針を明示してもらいたい。(サービス業)